

森林減少の原因

世界的な森林減少の原因として、燃料用木材の過剰な採取、大規模な農地・プランテーションの開発、不適切な焼畑農業の増加、森林火災、違法伐採などが挙げられます。その背景には、開発途上国における急激な人口増加、貧困などのさまざまな社会的・経済的問題があります。

燃料用木材の過剰な採取

多くの開発途上国では、薪や炭などの木材を燃料としています。世界で使われている木材の約半分が燃料用の木材です。乾燥地域では、人口の増加などにより、身近な森林を伐りつくしてしまい、何kmも離れた場所まで、薪を集めにいかなければならないところがあります。



薪は炊事の燃料などに使われる(ネパール)
写真提供:独立行政法人 国際協力機構(JICA)



新しいアブラヤシ農園を作るため大規模に伐採された森林(マレーシア)
写真提供:国際熱帯木材機関(ITTO)

大規模な農地・プランテーションの開発

森林を伐採し、アブラヤシなどの農地・プランテーションに転換する開発が大規模に行われています。アブラヤシから取れる油は、食用油や化粧品、洗剤など私たちの身のまわりにあるものに幅広く使われています。



短期間に繰り返される焼畑により森林が草地化していく(インドネシア)
写真提供:ITTO

不適切な焼畑農業の増加

焼畑農業は、森林を焼き払い、灰を肥料にして2~3年間耕作し、土地がやせてくると別の場所に移動して森林を焼き払うものです。伝統的な方法では、一度、焼畑農業を行った場所は、次に焼畑農業を行うまでに20~30年放置するため、森林を十分に回復させることができました。ところが、近年、人口の増加に伴い、森林が回復しないうちに再び焼き払うという非伝統的な焼畑農業が行われるようになっていきます。

森林火災

焼畑農業や農地開発のための火入れなどを発端として、大きな森林火災が起きています。例えば、1997年から1998年にかけてインドネシアのカリマンタン島とスマトラ島で起きた森林火災では、約500万ha(中国地方と四国を合わせた面積に相当)の森林が灰になりました。



草地や農地で発生し森林へ広がった火災(インドネシア)
写真提供:ITTO

違法伐採

それぞれの国・地域の法律や規則に違反して行われる森林伐採が、近年、森林減少の原因として注目されています。日本は木材の約8割を東南アジアやロシアなど海外から輸入していますが、これらの国の中には、違法伐採が問題になっている地域もあります。



目立たぬよう筏のように川に浮かべられた違法に伐採された木材。筏の長さは100m以上(インドネシア)
写真提供:(社)全国木材組合連合会